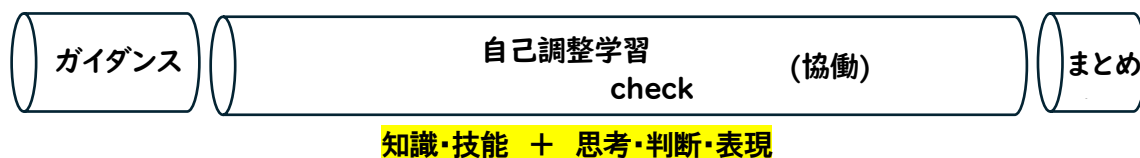


東山小の自己調整学習について

～ALL型・HYBRID型～

ALL型〔個人学び〕

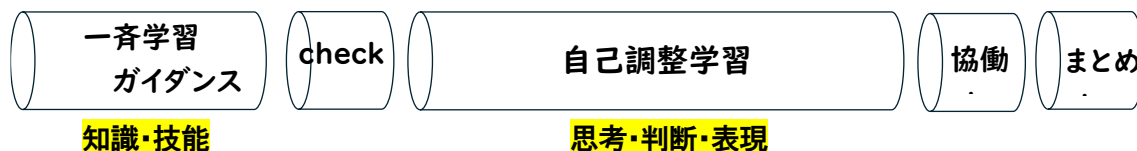


令和6年度から「自己調整」という学び方についての研究開発を始めました。まず取り組んだのは「単元内自由進度学習」で、教師としても、児童にとっても初めての経験でした。

1年間の研究開発を通して、「単元内自由進度学習」のメリットを理解しながら、本校独自で学習効果をより高めるための工夫・改善を考え、2年目には、一つの単元での実現に向けて内容・方法・形態などを改良した「東山小版 自己調整学習」を完成させました。具体的には、各学年で実施に適した教科と8～10時間単元を設定し、事前準備として教師用の学習プラン、児童一人一人が学ぶことができるための学習の手引き、学習シート、情報ツール、振り返りシートを開発しました。

効果として、児童個々の学習意欲の向上や知識・理解の高まりなど、総合的に学力面での向上が見られました。一方、学習指導の在り方にいくつかの課題があり、解決策として本年度はハイブリット型に取り組みました。

HYBRID型〔全体学び+個人学び〕



令和8年度は、「主体的に学びに向かう力」の育成という重点は変えず、どの学校でも、どの先生でも実施が可能な一斉学習と自己調整を取り入れた学習法について研究開発を進めてきました。

特徴として、前半の3～4時間で「単元の目標に準じた基礎的・基本的な知識・技能」の習得、つまりしっかり教え、理解させる段階、その後にその既習事項を生かして、共通並びに個人の学習課題「問い」について自分の力で情報活用しながら解決していくという自己調整を生かした段階、最後に学級全体で大切なことについて意見交換、情報共有として学びを広げたり、深めたりする段階としました。

このHYBRID型自己調整学習は、ALL型での弱点を解決するとともに、自己調整学習の利点を効果的に生かした学習法の一つです。また、ALL型に比べて、事前準備のための時間や教材の量などを減らすことができ、通常の授業として利用できると考えています。

もちろん、学習内容・方法によりすべての単元が適用できるものではありません。しかし、これからの新しい学習の在り方としては、十分に効果が期待できると考えています。

◎本年度は3年間の研究開発としてまとめとして、前期6～7月にHYBRID型自己調整学習の実践研究、後期11～12月にALL型自己調整学習の効果確認を行い、次年度以降も授業改善の方策として研究開発を進めていく予定です。